

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名		アジア初演「なると第九」ブランド化プロジェクト推進事業		担当部署	市民環境部 「第九」ブランド化推進室 企画総務部 戦略企画課 教育委員会 学校教育課	
総合計画体系				根拠法令計画など	なし	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で 生きがいを感じる まちづくり		事業期間	開始	平成 ▼ 26 年度
政策(中項目)	4	生きがいあふれるまち なると				終期
(小項目)		文化振興				
施策	4	暮らしの中で文化と創造が息づくまちづくりの推進				
基本事業	2	文化芸術活動の拠点施設等の充実				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内外						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	1918年6月1日、板東俘虜収容所において、ドイツ兵捕虜がアジアで初めてベートーヴェンの「第九」交響曲を演奏した。またこれを記念し、昭和57年から市民による「第九」の演奏会が続けられている。こうした国内外に誇るべき背景を持つ「なると第九」をブランド化することで、市内外へ周知・啓発を進め、交流人口の拡大を図る。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	①「なると第九」に関する観光産業化を推進 ②将来の「なると第九」を担う次世代の育成 ③「なると第九」を市内外に周知啓発PRの推進 ④「第九」演奏会及び関連行事の実施 ⑤板東俘虜収容所跡地の環境向上						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		ドイツ館周辺への来訪者数	69,000	70,250	75,250	85,250	-	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①観光産業化推進(「なると第九」ツアー開発、商品開発) ②次世代育成(幼小中での「なると第九」現地学習・歴史学習・合唱講習、ジュニア演奏会実施準備) ③啓発PR(巡回パネル展開催、県内外イベントでのPR活動、広報啓発グッズの作成配布、メディアを活用した広報活動、市内各所に誘導案内・PR看板設置) ④演奏会実施(文化会館演奏会、大塚国際美術館演奏会、アフター交流会、第4回「第九」里帰り公演へのドイツ兵捕虜子孫招待) ⑤収容所跡地環境向上(史跡表示標柱設置)					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他					
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	指標名	27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
	1 俘虜収容所跡地周辺施設改善箇所数(累計)	4	14	14	14	-	箇所
	2 「なると第九」講習を受けた市民の数	805	1061	3100	1100	-	人
	3 PRイベント実施回数	16	22	22	22	-	回
	4 「第九」演奏会関連行事実施回数	5	6	6	10	-	回
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	ドイツ館周辺への来訪者数	69,174	70,000	-	-	-	人
	目標達成率(実績/目標)		99.6	-	-	-	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり		事業全体の進捗状況		計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	17,725	0	0	0	1,300	19,025
		全体予算額	17,725	0	0	0	1,300	19,025
		決算額	16,400	0	0	0	244	16,644
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)		総人件費		総事業費	
		3.5	0.0		24,966		41,610	

【鳴門市行政評価】

【事務事業名：アジア初演「なると第九」ブランド化プロジェクト推進事業】

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	8,252	16,644	21,444	未定	
	うち一般財源	1,282	244	10,753		
	人件費	24,007	24,966	24,966		
	総事業費	32,259	41,610	46,410		

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		目標をほぼ達成したため
	効率性	A:効率的だった		事業量が増加する中限られた人員と予算で対応した
②成果に対する評価	指標名	ドイツ館周辺への来訪者数		目標に達しなかったものの、ほぼそれに近い実績となったため
	目標	70,250	人	
	実績	70,000	人	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		A		項目①②のとおり

◎今後の方向性(ACTION)

課題	アジア初演「なると第九」ブランド化プロジェクト実施計画を基に、施策の具体的な実施内容及び事業経費を検討し、計画的にプロジェクトを産学官民連携のもと推進していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	①観光産業化推進(収容所周辺ウォーキングイベント開催・メディア放送等) ②次世代育成(幼小中での「なると第九」現地学習・歴史学習・合唱講習、ジュニア演奏会実施準備等) ③啓発PR(巡回パネル展開催、県内外イベントでのPR活動、広報啓発グッズの作成配布、メディアを活用した広報活動、映画「バルトの楽園」上映等) ④演奏会実施(文化会館演奏会、大塚国際美術館演奏会、アフター交流会等)			
	H30年度	「第九」アジア初演100周年を記念した演奏会やイベントを開催し「なると第九」のブランド化推進と交流人口の増大を図る。			